2010年度大学入試センター試験　解説〈倫理〉

第１問　青年期の課題（配点　8点）

問１　1　③が正しい。

ステレオタイプとは確実でない事柄について紋切り型な固定観念のこと。アはクレッチマーによる性格分類にもとづく記述であり，われわれにも馴染み深い議論だが，これは一定数のサンプルから導かれた傾向を意味するに過ぎず，またこのような傾向があるというのも一つの理論仮説に過ぎない。いずれにせよ性格と体型に因果的な関係があるということはまったく言えず，こうした見方はステレオタイプの典型である。イ～エについても，こうした発言をする人々の実感や意見を意味するだけであり，科学的な実証性をもつ議論とは程遠い。

問２　2　①が正しい。

かなわぬ恋など，自分で自覚したくない事柄を意識の奥底へと沈殿させる働きが抑圧であり，防衛機制の代表的なもの。②は投影ではなく「同一視」もしくは「摂取」の具体例。③は代償ではなく「昇華」の典型例。④は防衛機制ではなく「合理的解決」についての具体例。

問３　3　④が正しい。

個人的出来事に対しては，怒りを感じる高校生＞悲しみを感じる高校生＞無反応な高校生の順で有能感得点，つまり他者を見下す程度が高い。社会的出来事に対しては，無反応は高校生＞怒りを感じる高校生＞悲しみを感じる高校生の順で得点が高い。①については，いずれの出来事に対しても悲しみを感じる高校生は必ずしも他者を見下す程度は高くない。②は関連性を否定しているが，④のような関連性は見出せる。③は「高い」を「低い」にすると正しくなる。かなり込み入った設問なので，設問文と各選択肢をかなり入念に読む必要がある。

第２問　囚われについて(源流思想)　（配点　24点）

問１　4　②が正しい。

荘子は，宇宙の根源である道(タオ)に従っているという点で万物に差はなく，是非・善悪といった人為的な対立を超えたところに絶対的な真実の世界があると考えた。この思想を万物斉同という。

③無為自然は，何もしなければ道の働きによっておのずから上手くいくという，『老子』で説かれる人間のあり方。①逍遥遊は道にすべてを委ねる境地，④心斎坐忘は心を空虚にして己れを忘れ去るという無為自然に至るための修養法で，ともに『荘子』で説かれているが，リード文の文脈からは②万物斉同が適当である。

5　④が正しい。

ユダヤ教において律法(神から与えられた守るべききまり)の根本とされるのが，モーセが神ヤハウェから授かったとされる十戒である。パウロは初めユダヤ教徒であったが，ある時不思議な光に打たれてイエスの声を聞き，キリスト教に回心して伝道に努めた。

①三宝は仏・法・僧の三者をこの世の宝とする仏教用語で，聖徳太子の制定した十七条憲法にも「篤く三宝を敬へ」とある。②四書は朱子が定めた儒家の根本教典。『論語』『孟子』『大学』『中庸』からなる。③五戒は仏教において在家の信者が守るべき５つの戒律(不殺生戒・不偸盗戒・不邪淫戒・不妄語戒・不飲酒戒)。

問２　6　④が正しい。

ブッダが悟った縁起の法を，具体的な実践の過程としてまとめた４つの真理を四諦という。道諦とは涅槃寂静に至るための道を示した真理のことで，ブッダは快楽と苦行の両極端を避ける中道を説いた。

①苦諦は，人生は苦しみであるとの真理。「諦」は真理の意味であって，「諦める」ということではない。②集諦は，苦は煩悩が集まることで生じるとの真理。「因縁が集まって生じる」が誤り。③滅諦は，煩悩を滅すれば涅槃寂静の境地を得られるとの境地。ブッダは我執を断つべきことを説いており，「煩悩がおのずから滅することに任せよ」は誤り。

問3　7　③が正しい。

ストア派のゼノンは，宇宙は神の理法(ロゴス)に従って生成されたものであるから，同じく理性(ロゴス)を分け持つ人間もそれに従って生きるべきことを生活信条として説いた。これを「自然に従って生きよ(る)」と言う。

①は「自然の中で」，②「人間の理性を離れ」，④は「自然が与えるもので満足」が誤り。ここでいう「自然」とはおのずから・あるがままの意であって，natureとしての自然ではない。

問4　8　②が正しい。

プラトンは，絶えず変化する現象界に対して，永遠不変の真の実在である理想のイデア界の存在を説いた。現象界は感覚によって捉えられる不完全な世界であるが，イデア界は知性(理性)によってのみ捉えられる完全なる世界である。

①③は「イデアは個物に内在する」が誤り。本質として形相(エイドス)が個物に内在すると考えたのは，プラトンの弟子のアリストテレスである。③④は「感覚は知性の指導のもとにそれ(＝イデア)を捉える」が誤り。

問5　9　④が正しい。

ア人間の本性を欲望に支配された悪と捉える性悪説の立場から，為政者に社会規範となるべき礼を整備する必要(礼治政治)を説いたのは，儒家の荀子。イ天命は民衆の声に現れると考えて，武力によって徳を失した君子を倒すこと(放伐)を肯定したのは，儒家の孟子。ウ為政者は徳を備えた君子としてこの世界の創造者たる天命にかなった政治を行うべきこと(徳治政治)を説いたのは，儒家の祖である孔子。エ人間を利己的な存在と見る立場から，法的な強制による社会秩序の維持(法治政治)を主張し，国家統治には信賞必罰が必要であると説いたのは，法家の韓非子。

問6　10　①が正しい。

アラブ人たちはもともと多神教を信仰していたが，ムハンマドが唯一神アッラーの啓示を受けてイスラームを創始した。イスラームでは，絶対なる帰依を誓った唯一神アッラーの下で人間は身分や民族をこえて平等とされる。

②「ヤハウェを認めようとしない」が誤り。ムハンマドはユダヤ教・キリスト教の要素を取り入れてイスラームを開いている。イスラエル人(ユダヤ人)の部族神ヤハウェもアッラーもこの世界を創造した唯一絶対なる神であり，イスラームでは『旧約聖書』『新約聖書』をともに聖典として認めている。③「カーバ神殿での礼拝そのものに反対」が誤り。イスラームの聖地メッカにあるカーバ神殿には，もとは多神教の神々の偶像が祀られていたが，ムハンマドがこれを破壊した際に黒い石が現れてこれに敬意を示したことから，イスラームでも聖域とされた。④ムスリム(イスラーム教徒)が信ずべき六信は，神アッラー・天使・聖典『クルアーン』・預言者・来世・天命の6つ。「ムハンマドを救い主として信じる」は誤りである。

問7　11　③が正しい。

キリスト教では，神の愛(アガペー)は無差別・無償に降り注がれるのだから，我々も敵・味方の区別なく愛すべきこと(隣人愛)が説かれる。

①「預言者によって新しくされた律法に生きる喜び」が誤り。イエスは律法を厳格に守るのではなく，そこに込められた神の愛を読み取ることこそが重要である(律法の内面化)と説いた。②「自ら罪を贖う」が誤り。生まれながらにして原罪を背負う人間は，イエスが十字架に架けられることでその罪を贖われたとパウロは説いた。④「教父にふさわしい生き方」が誤り。教父はキリスト教の教義の確立に努めた教会の指導者のこと。パウロは教父ではない。

問8　12　①が正しい。

内容合致問題は，リード文を丁寧に読み取って選択肢を吟味すれば確実に正解できる。特に，冒頭と最終段落の内容を的確に押さえることが大切だ。本問では，「既成の価値観や考え方などに対する囚われについて」と問題提起され，先哲のあり方を振り返りつつ，「自分の考え方を相対化」することが「より良き生き方へと，心の窓を大きく開く」と結論づけている。①はこの趣旨に合致する。

②は「より良き共同体を形成するために最も必要なこと」という議論がリード文にない。③も「先哲たちは，巧みな比喩による示唆が最も有効な方法であると考え」がリード文にない内容。④も同じく「過信」「傲慢」を避けるといった内容がリード文にはない。一般的・常識的な見方に〈囚われ〉ず，リード文の内容から選択肢の正誤は判定してほしい。

第３問　出会いについて(日本思想)　（配点　24点）

問１　13　④が正しい。

真言密教において根本仏とされるのが大日如来である。真言宗を開いた空海は，身体・言葉・心のすべてを用いた三密の修行を行うことで，大日如来と一体化し，この身そのままで仏になれる(即身成仏)と説いた。

①弥勒菩薩は観音菩薩とならんで古来民衆の信仰の対象とされてきた未来仏。菩薩は，一切衆生が救われない限り自らも救われないと願を立てて利他行に励んだ求道者で，大乗仏教では他者への慈悲を実践する理想像とされた。②法蔵菩薩は阿弥陀仏の修業時代の姿とされる。④釈迦如来はブッダの敬称である。

14　②が正しい。

心学を創始し，上方(大坂・京都)の町人に正直・倹約などの商業道徳を説いたのは，石田梅岩である。神道・仏教・儒教の諸要素を取り入れ，日常生活における具体的な実践の徳目を示したことから，「神仏儒打って一丸した」と形容された。

①安藤昌益は，封建社会を批判し，万人直耕の自然世への回帰を主張した東北地方の医師。③荷田春満は，将軍徳川吉宗に国学の学校の創立を求めたことでも知られる京都の神職。④富永仲基は，『出定後語』を著わして仏教加上説(仏教の経典はブッダの教えそのものではなく，のちの発展とともに付け加わっていった内容であるとの説)を主張した大坂の思想家。教科書でも扱いは少なく，日本思想分野は特にきめ細やかな学習が求められる。

問２　15　①が正しい。

センター倫理特有の出題形式の資料読解問題である。学習してきた知識をうまく活かしながら，資料の内容を丁寧に読み取って解答してほしい。

親鸞の開いた一向宗(浄土真宗)は，僧侶に妻帯を認めることで知られる。リード文にあるとおり，親鸞も恵信尼を妻とした。それが，どのような意味を持ったのか？　資料文を読んでみよう。観音菩薩が夢のなかで親鸞に告げた内容は，私(＝観音菩薩)がその女性(＝恵信尼)となってあなた(＝親鸞)と結ばれ，臨終に際して極楽に往生させようというものであった。つまり，親鸞は恵信尼を妻としたことで観音菩薩と結ばれ，他力による救済の道を思い知ったのである。ここには，親鸞の根本思想である絶対他力の教えが示されている。

これを踏まえて選択肢を吟味しよう。②は「罪業を贖うために」，③は「煩悩を抑えるために」，④は「煩悩を克服し」が誤りである。リード文に，恵信尼との「出会いを通して凡夫としての自覚をいっそう強め」たとある。凡夫とは，自らの罪深さ

を自覚した人間のことである。自らの手では女性(＝恵信尼)への思いを断ち切ることができない。その煩悩深さ・罪深さを自覚していたからこそ，親鸞は絶対他力を説いたのである。誤りを含む②～④に対し，①に特にキズはない。親鸞は同じく凡夫であるという意識から，僧と俗を区別しなかった。

問 3　16　①が正しい。

浄土宗を開いた法然は，末法の世においては他の一切の修行法を捨てて，一心に念仏を唱えるべきこと(専修念仏)を説いた。

②「旧仏教を改革しつつ」が誤り。法然は民衆教化のため天台宗の比叡山を下山した。③末法思想についての説明であるが，すでに平安時代(11世紀)には人々の間に浸透していた。④菩薩についての説明(上記**問 1**　13　の解説を参照のこと)。

問 4　17　④が正しい。

禅宗は，末法の世にも坐禅による自力救済の道を説いたことで，鎌倉仏教の他の宗派と異なる。日本に臨済宗を伝えた栄西は，『興禅護国論』を著わして，坐禅の修行が国家に有為な人材を育てることで，鎮護国家の役割を果たすと説いた。

②平安時代に浄土信仰を京中の人々に広めた，源信の「厭離穢土，欣求浄土」の教え。③平安初期に中国から天台宗を伝え，法華経の一乗思想を強調した最澄の「山川草木悉皆成仏」の教え。

問 5　18　③が正しい。

もとは相国寺の臨済僧であった藤原惺窩は，仏教の教えが現実の社会から乖離していると批判して，儒学を独立させた。

①「民衆の強い支持を得ていた儒学」が誤り。②「出世間を説く儒学の教え」が誤り。惺窩は，人間関係における徳目を重視する儒学の現実的な側面を評価していた。④惺窩の弟子である林羅山についての説明。羅山の子孫は代々徳川将軍家に仕えた。

問 6　19　④が正しい。

問 2 と同様の資料読解問題である。福沢諭吉が日本の近代化に必要なものとして独立自尊の精神を指摘していたことを踏まえて，資料文を読もう。後半では，「文明に後るる者(＝日本)は先だつ者(＝西洋諸国)に制せらるるの理」であるから，「自国の独立如何の一事」こそが心に感ずるべきものであると述べられている。「人々はまず日本の独立に心を向け」とある④が正解と判定できる。①は幕末に佐久間象山らが主張した和魂洋才についての説明。

問７　20　①が誤り。

「これ(＝キリスト教)を土台として武士道精神を育むべき」が誤り。新渡戸稲造・内村鑑三ら明治時代のキリスト者は，武士道の滅私の精神とキリスト教の隣人愛の精神の間に親和性を見てとり，日本にはキリスト教を受け入れる精神的な土壌があると考えていた。それゆえ，「土台」と言うのならばキリスト教ではなくむしろ武士道の方である。

②の鈴木大拙は禅研究の世界的な第一人者として知られるが，教科書での扱いは多くない。③の武者小路実篤も倫理では学習していなかったかもしれない。問１の解説でも指摘したとおり，日本思想分野はこうした人物まで踏み込んで学習しておくことが必要である。なお，④の折口信夫は昨年(2009年)も出題されている。

問８　21　②が正しい。

内容合致問題は，第２問問８の解説でも書いたとおり，リード文の内容を的確に押さえて解答すること。本問では，他者との出会い，異なる思想や文化との出会いを通じて，自己認識を深め，独自の立場や新しい思想を生み出した先哲の姿が描かれている。これに合致するのは，「出会いを通して自己のあり方への自覚を深め」「独自の思想を展開」とある②である。

①は「他者の立場から適度な距離を保ち」，③は「逆に対象に変化をもたらす」，④は「他者の悩みをも受け止める」といった内容を，リード文から読み取ることはできない。

第４問　人間と科学（西洋近代思想）（配点　20点）

問１　22　②が正しい。

経験論者たちが重視する知識の二大源泉が観察と「実験」。事実をありのままに捉えようとすることが観察であり，仮説を検証する手続きが実験である。なおこれに対して合理論者たちが確実な知識の源泉とするのは理性の働きである。

23　①が正しい。

デカルトをはじめとする合理論者たちは，目の錯覚に見られるように経験が不確実であることを問題視し，経験論の依拠する帰納法では真理が捉えられないと考えた。デカルトらによると，理性を働かせて合理的な推論を行うことによってのみ確実な知識は獲得されるのであって，この方法こそが演繹法にほかならない。演繹法は，一切の経験を経ずして前提から論理必然的に結論を導くという点に特徴がある。

問 2　24　③が正しい。

スコラ哲学の時代には，それまでの神学のように独断的に信仰を強調するだけでは不十分だと考えられるに至っており，この時代にアラビア半島からもたらされたアリストテレス哲学をはじめとした哲学によって信仰を合理的なものへと昇華しようという動きが起こった。この動きを象徴するのがトマス・アクィナスである。①はハイデッガー，②はルネサンス，④はソクラテスの思想的立場についての記述。

問 3　25　④が正しい。

ベーコンの説いた四つのイドラについて正確な理解ができているかを確認する設問。①の記述は「洞窟のイドラ」，②の記述は「種族のイドラ」についての説明となっている。③の「市場のイドラ」とは，人々が言葉を過信して現実から遊離してしまう事態を指す。③の記述は「言葉」というキーワードが盛り込まれているが，その位置づけがちょうど逆になっている。

問 4　26　③が正しい。

たとえば「彼は勉強したから成績が上がった」といった言い方をすることがある。この場合に「彼が勉強をした」という現象と「彼の成績が上がった」という現象については知覚できる。だがこの二つの現象を結びつける因果関係そのものを知覚することはできない。およそいかなる場合でも因果関係については知ることができないのであって，われわれはそれを心の習慣として抱いているにすぎない，というのがヒュームの議論である。①の立場と違い，ヒュームはそもそも「絶対的な真理」を求めない。②はソクラテス，④はモンテーニュについての記述。

問 5　27　①が正しい。

ダーウィンの適者生存についての記述。②はダーウィン以前に「適者生存」という語をつくり，社会進化論を提唱したスペンサーについての記述。社会有機体論などと言われる。③はキリスト教の神学を科学的に擁護する考え方だが，このような立場をとらなかったために，ダーウィンは宗教界などから大きな攻撃を受けた。④は優生思想についての記述。ダーウィンからの一定の影響下に生まれた思想だが，ダーウィンの思想自身がこうした差別的な内容に帰結するわけではない。

問６　28　②が誤り。

野生生物種の減少という事態は程度の差はあれ人類の文明史上に古くからある事柄であって，「20世紀以降，新たに生じてきた」わけではない。①③④は20世紀以降に出現した科学技術を背景とする倫理的問題である。④は20世紀の終盤以降に急速に開発されつつあるＥＳ細胞についての記述。

問７　29　②が正しい。

資料文によると，疑似科学には「科学のようで」という条件と「科学でない」という二つの条件が必要だとされる。②は「科学の教科書で否定され」という点が「科学でない」という条件に対応し，「科学的に見て正しいはずだ」という点が「科学のようで」という条件に対応する。①④は「科学のようで」という条件を満たさず，③はいずれの条件をも満たしていない。

問８　30　③が正しい。

典型的なパターンのリード文であり，科学の光と影の両側面に注意を促すことが説かれている。①②は科学の負の側面に無反省であり，④は科学の肯定的側面を看過している。最終段落をよく読めば難なく解けるだろう。

第５問　社会の安全と個人の自由（現代社会）

問１　31　①が正しい。

『国富論』の著者はアダム・スミスである。彼は市場メカニズムの働きを「見えざる手」として称揚したため，20世紀後半に強く提唱され始めた「小さな政府」の主張の一つの源泉になっている。ただしスミス自身は人々が他者への共感にもとづいて倫理的な行動をとることをも前提しているので，市場メカニズムによって弱肉強食の社会が到来することを正当化したわけではない。

問 2　32　②が正しい。

『統治論』の著者はロック。彼は自然状態が基本的に平和であるとしたうえで，財産権などの自然権をより確実なものにするために結ぶのが社会契約だとする。①③④は著者と思想の組合せがおかしい。①の『リヴァイアサン』の著者はホッブズで，彼の自然状態論によると，人々が自己保存権を行使しようとして「万人の万人に対する闘争」に陥るとされる。④の説明がこれに当たり，また③の引用文も『リヴァイアサン』である。③の『人間不平等起源論』の著者はルソーだが，彼が自然状態を賛美したことを想起できれば③は誤文と判断できる。④の『社会契約論』の著者はもちろんルソー。①の説明はルソーの自然状態論に近いが，「一般意志」は人々が契約を結ぶ際に従うべき原理である。

問 3　33　③が誤り。

「強まった」を「弱まった」とすれば正しい記述となる。コミュニティの機能を回復させることが今日の課題の一つだと考えられている。①の「家族機能の外部化」とは，伝統的に家族で営まれてきた介護や育児といった営みが家族の外部で営まれるようになっている現象を指す。②の高齢化と④の少子化が大きな課題であることは周知の通りである。

問 4　34　④が正しい。

アは「3人に2人」を「3人に1人」とすれば正しくなる。エについては，30歳代よりも40歳代で割合が減少していることなどから正しくない記述と考えられる。統計処理としてこの判断に疑問がないわけではないが，エを除いたア・イ・ウの正誤の組合せを正しく示しているのが④しかないこともあり，④が正解だと判断できる。

問 5　35　②が正しい。

「一つの装置で同時に受信と送信ができる」という資料文の記述が「双方向性の通信技術」に対応し，資料文にある「私的な個人生活は」以下の内容が「個人の行動や思想が統制される危険性」に対応する。①の「疑似イベント」，③の「仮想現実」，④の「ハッカー」や「コンピュータ・ウィルス」に対応する記述は資料文にない。

問 6　36　③が正しい。

ミルのいわゆる「他者危害原理」についての設問。他者に危害を加えることに対しては強制力が加えられるべきだが，それ以外の一切の行為については自由であるべきだ，というのがミルの主張である。携帯電話の使用は飛行機の電子機器に影響を与え，他者に危害を加える恐れがあるので規制の対象になる。これに対して①は本人のために，②は正しいがゆえに，④は世論の反発を理由に規制を正当化しており，他者に対する危害というミルの基準とは異なる。

問 7　37　③が正しい。

Ｓさんの2回目の発言に③の考え方が表明されている。①はＦ国の「社会保障が政府に任されている」が，②は「政府に対する監視も充実」が，④は「プライバシーを過度に保護」がそれぞれ誤り。